

# GLIT

## 巧みなブランディング活動で 医療、宇宙など 先端成長市場を開拓

「GLIT（グリット）」は、金属加工、組立て、樹脂加工業など、茨城県日立市を中心とした茨城県内および栃木県にまたがる中小製造業 11 社で構成された共同受注体。日立市が主催する「ひたち立志塾」で 2012 年に発足した分科会「ひたち先端技術研究会」が前身で、医療・ヘルスケア、航空・宇宙、クリーンエネルギーなど先端分野への参入に向けた勉強会を中心に活動を行ってきた。

2015 年、受注が見込める技術やノウハウが蓄積したと判断。顧客にとっての価値を高める“ブランディング”を意識し、革新的な技術で先端産業をリードしていく共同体の意味を込めた GLIT（Guild for Leading Innovative Technology）に名称を変更した。す



図1 立志塾から生まれたGLITのメンバー。  
左から創和工業社長の佐藤創一氏、光和精機製作所社長の佐藤貴之氏、日港製作所社長の澤畠弘人氏、GLIT 代表でエムテック社長の松木徹氏

ると狙いどおりテレビや新聞の取材が相次ぎ、一気に認知度が上がった。GLIT としての受注のほか、メンバー各社の本業の売上げが 1.4 倍に伸びるなど大きな成果を上げている。

### メディア受けする名で知名度アップ

ひたち先端技術研究会の創設者で、NC 旋盤加工業を営む(株)エムテック（茨城県ひたちなか市）社長の松木徹氏は、GLIT という名称には日立市というローカル色を薄め、全国的な認知度を高めるブランディング戦略があったと語る（図 1）。「GLIT 以前からエムテックとして医療関係の展示会に出展していたのですが、そのときから展示会でいかに差別化するか、認知してもらうかを意識して取り組んできました。どんなに高い技術があっても、町工場 1 社の名前では認知されにくい。認知されなければ存在しないに等しいと言われたこともあり、ブランディングをいかに図っていくかを相当勉強しました」（松木氏）。

GLIT のメンバーで、装置設計や難加工材の試作など手がける(有)光和精機製作所（茨城県日立市）社長の佐藤貴之氏も松木氏の話に同意する。「ひたち先端技術研究会という名で展示会に出て名刺交換すると、日立グループとつながった会社と思われ、『それじゃ取引できない』と誤解されることもあった。“日立色”を消したのもブランディングの一環でした」（佐藤氏）。

ブランディングの効果は狙いどおりのようで、「この 2、3 年でだいぶ認知度が上がってきた」と松木氏。展示会では積極的に技術をアピール（図 2）。その取